

(仮)熊本ベース設置について

- ・全国のボーイスカウト集合が災害ボランティアに従事するための宿营地

交通

JR豊肥線 光の森駅 徒歩15分、熊本ICから車で15分、熊本空港から30分
被災地である熊本市、菊池郡内、益城町、南阿蘇にアクセスがよい

宿营地業務

宿泊とともに、作業資材の管理をおこなう。

運営

24時間常駐(県連スタッフ交代・ローバー+九州沖縄ブロックの応援)
土日はカブスカウト以上は工具手入れ、ベース周囲の清掃奉仕

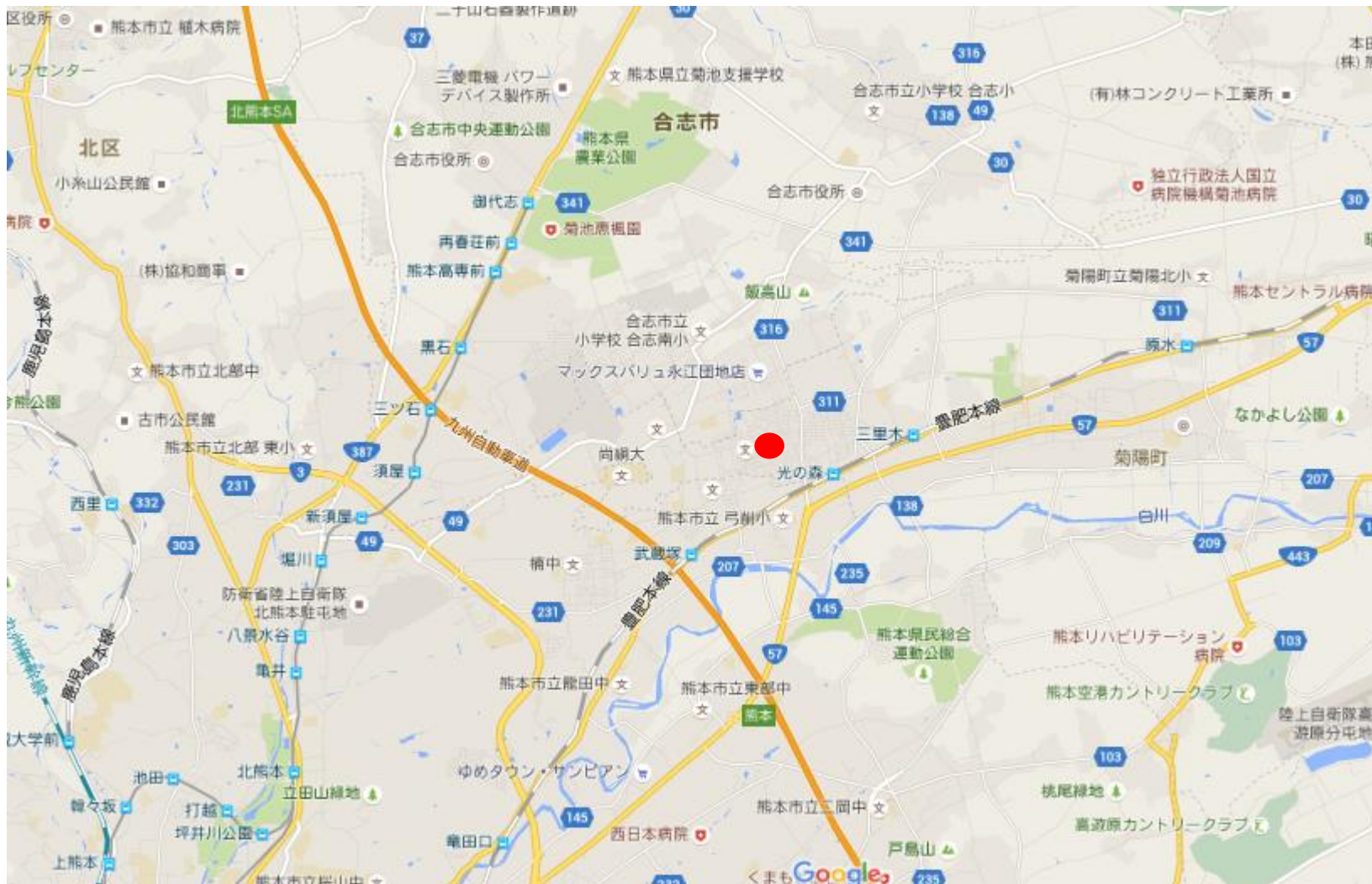
業務

ボランティアセンターからのニーズの振り分け
熊本市、菊陽町、益城町 緊急度により重点を決める必要あり。

課題

FAX、メール環境(Wi-Fiルーター確保、電源:発電機)

光の森多目的広場の位置 熊本IC、光の森駅広域図



光の森多目的広場の位置 光の森駅からの位置



光の森多目的広場の詳細

住所 〒869-1108

熊本県菊池郡菊陽町光の森3-2
光の森町民センター 北側広場



場所の設定

車両入口に近い事
水確保できる事

①テニスコートの横



②お風呂撤去後に
移動

*民家と接しない。

光の森多目的広場の詳細

東側(設営予定地)



南側(給水所)



北東側(自衛隊車両)



北西側(お風呂)



北側(入口)



北側(水飲み場)



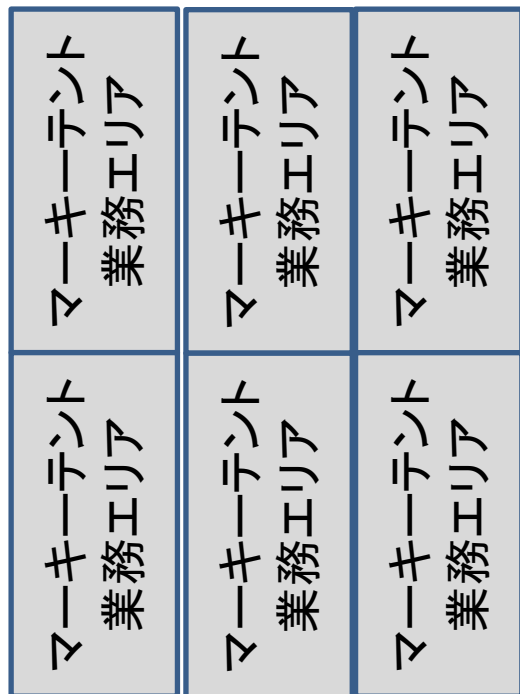
北側(トイレ)



ベース内レイアウト 宿泊はベース周辺に展開

世界
スカウト旗

マーキーテント
事務局

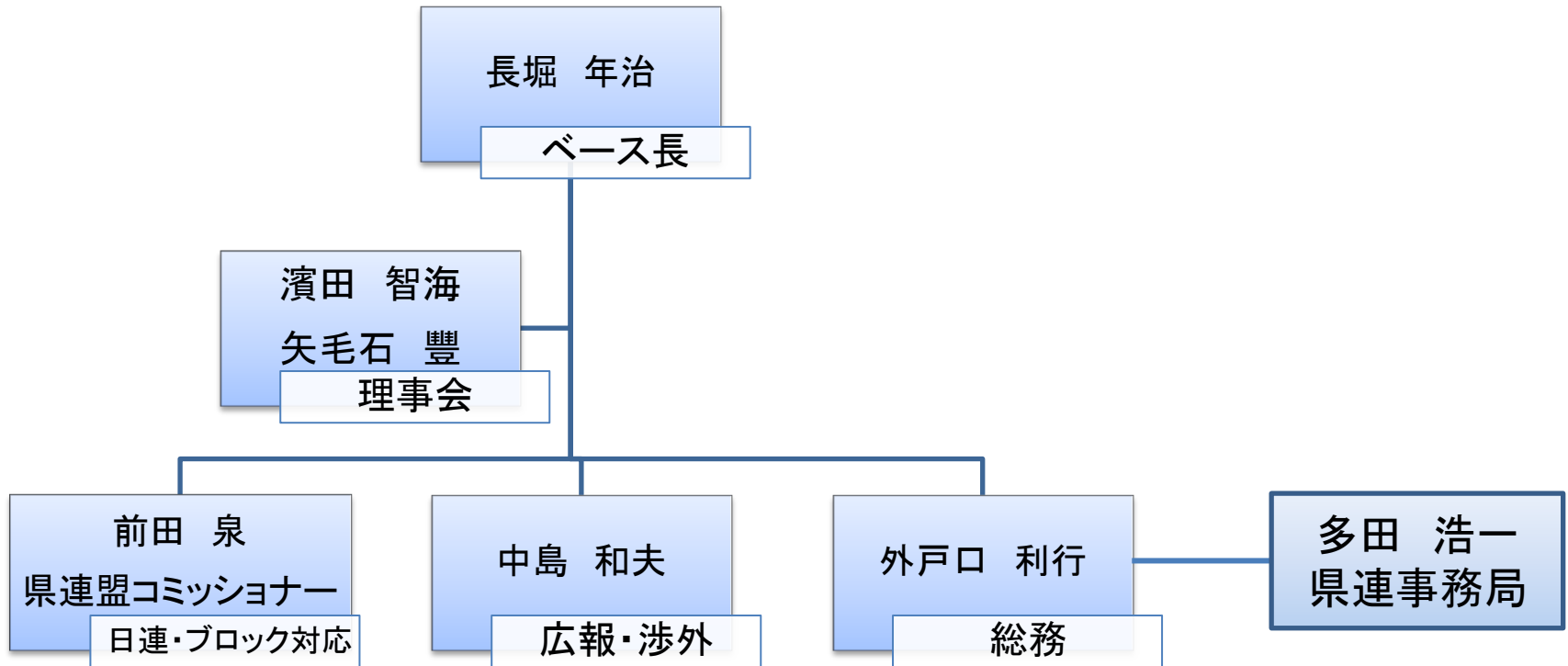


マーキーテント
ガス、食品倉
庫

マーキーテント
土嚢袋等
消耗品

マーキーテント
ネコ・スコップ
類

熊本地震対策現地組織



ボーイスカウト災害ボランティアの心得

- BSはスペシャリストとみられる。
- BSはサービスをする人とみられる。

この前提にたち

理不尽な要求、苦情（行政、他ボランティアの行動によるものも）、時には人格攻撃のような場面もあるでしょう。

被災者からみればボランティア、行政の区別はありません。

クレームは真摯に聴き、受容、共感しましょう。

時には罵声を浴びせらせる事も覚悟しましょう。

身近なボランティアは行き場のない怒りをぶつける相手になりえます。

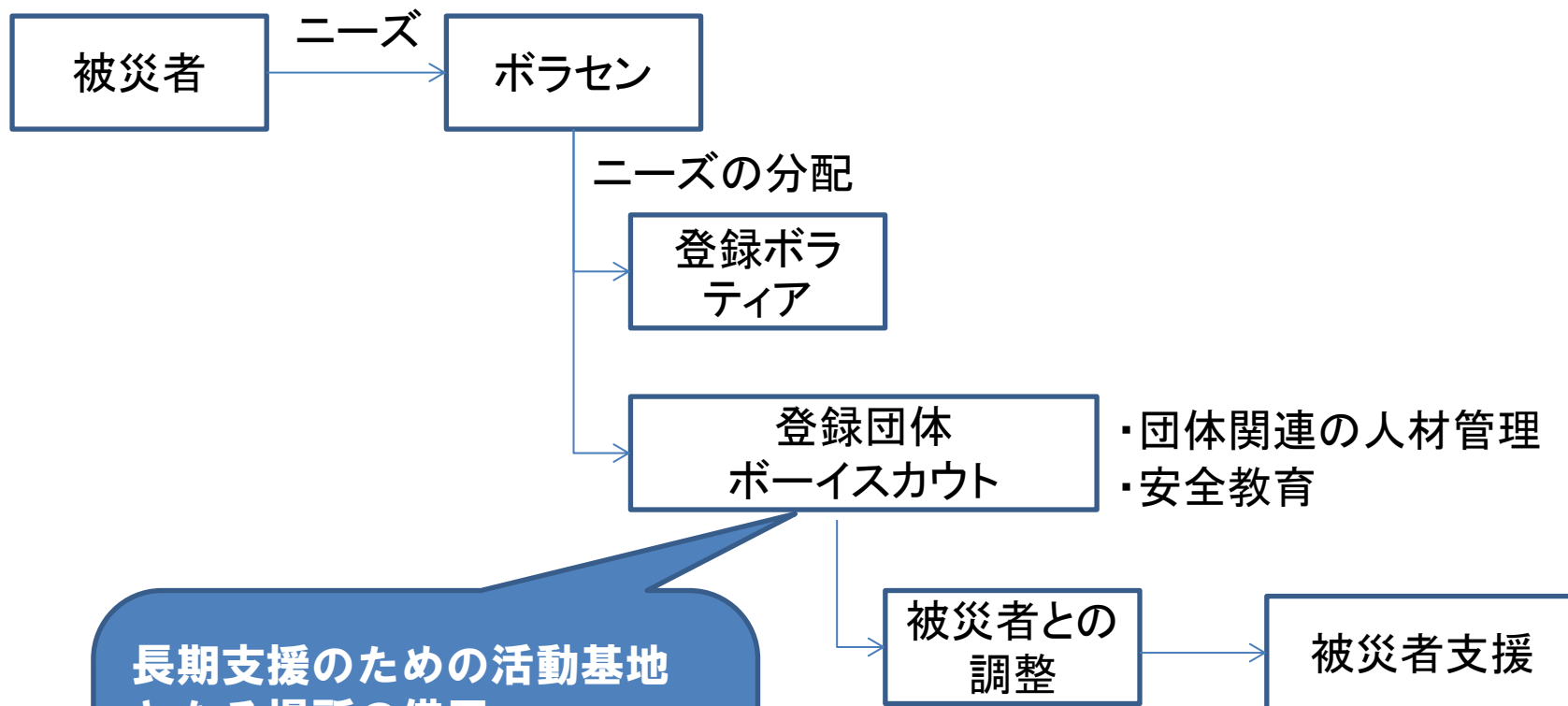
一生懸命やってあげてるは通じません。やって当たり前だからです。

苦情も生きているから言える事です。

奉仕の機会を頂いている感謝のみで活動しましょう。

自費での活動も多いと思いますが、そこも感謝の気持ちでひたむきな活動しましょう。

熊本地震 支援案 2016.4



長期支援のための活動基地となる場所の借用
用途 資材管理・野営地
参加者は自己完結型が基本

- ・活動期間は自炊
- ・食料もすべて持参（自費）

ボランティア受け入れ

受付時に

- 1・ボランティア自信で、4から6人でグループを編成してもらう。
- 2・グループ内でリーダー、安全、連絡、タイムキーパー、記録の役割を決める。
30分以内:リーダーは過去のボランティア経験者がよい
- 3・リーダーを集める(リーダーが10名以上になるときは3グループ単位でチームをつくり、リーダーの中からチームを選出してもらう。
- 4・リーダー会議を開催しニーズの振り分けをする。 1グループ1件
- 5・リーダーが自ら各被災者と連絡をとり場所の確認、ニーズの再確認、時間の調整
ニーズに応じて道具の選定(班で競合するときは班長どうしで調整)
- 6・グループメンバーへ出発の準備の指示
昼食は持参が原則

現地にて

- 余震発生に備えて避難場所(食事、休憩場所)、合図の確認、トイレの確認
- 被災者への挨拶(ニーズの再確認・・現地できない事は明確に伝える)
- 廃棄物と保管品の仕分け・・判断は被災者
- 作業完了の挨拶

戻ってから報告書作成

- ニーズ表とセットで簡単に記入できるよう書式を作成しておく。
- クレーム、注意点は全チームで共有できるように掲示板を作る。

震災装備

服装

Gパン
帽子
制服上(旧で可)
ジャンパー
チーフ
作業上着(ウインドブレーカー等)

携行品

登録証
ボランティア保険カード
保険証
携帯電話
筆記具
マッキー
ポケット手帳

安全装備

マスク
ヘルメット
ヘッドライト
軍手(革)
作業ゴム手袋

工具

スコップ大
スコップ(平)
布バケツ
モップ
たわし
バール
ペンチ
ドライバー
レンチ
ナイフ(カッター不可)
麻紐(太め)

宮城県石巻市活動報告

外戸口です。5月1日(日)から7日(土) ボーイスカウト災害ボランティアに参加しました。

現地の活動

ボーイスカウトでは基本的に個人宅の屋内清掃(家具出し、泥かき)をしています。

日本連盟の募集に個人で参加した人以外に2泊3日のボランティアバスで参加する方もいます。

期間中の個人40人(USA8名)、バス30人の計70人が最大人員でした。

この他に神奈川県連盟のグループ(わくわく隊):被災地の子供たちを遊びを通して元気付ける。

たい焼き隊:避難所に行って焼きながら配布。3月から東北各地で継続して実施中

たい焼きを食べて泣き崩れるおばあさん、たい焼きは無くなっても話相手を求めて並ぶ人も多いです。

解体が決まっている家の清掃を依頼する方もいますが、汚れた家具、外から流れて来た物、泥を出し綺麗になった事で気持ちの整理がつき、前を見ることが出来るのです。

余震も頻繁で危険な状態は続いています、今日も作業は続いています。



被災宅に向かうメンバー

自己完結装備として水も10L、食料、作業装備を揃えて行きましたが、郊外の大型ショッピングセンター、ファーストフードのお店など営業していて持っていく必要なし。

石巻で購入すれば地元にお金を落とせたと反省です。

支援物資は余っていますが(石巻市)、まだまだ人手不足！！ボランティアの受け入れ、作業支援をする体制が不足している

ため、現地ではピーク時で2000人しか活動していません。

BSは独立した基地を作りボランティアセンターの負担を軽減しています。(石巻ベース)

長期的な人的支援が必要で、数回目の参加の方もいました。



作業班メンバー



お堂と横に流れて来た家



満潮が近づきで冠水する道路



ガレキで埋まった道路



泥かき作業中



ボーイスカウトの基地



基地内の様子(食事中)



石巻ベース(基地)前にて